

大亜ツール工学株式会社

磨き上げるものづくり 「研ぐ」を極め、「創る」に挑む

木工機械用刃物の再研磨を生業として創業。

紙製品、食品、樹脂、鉄鋼、様々な産業用刃物の再研磨に取り組む。

「ルーター」創りを手始めに、「研ぐ」から「創る」への挑戦を重ねて。

機械装置の自動化と品質の定量化・可視化で、

技術を継承・発展させていく。常に市場の未来を見据えて。



高硬度超硬合金を使用したろう付け刃物の開発と専用工具研削盤の開発
小規模事業者でもできる!マシニングセンター5軸加工機化計画
画期的に紙粉を削減しヒトと環境への負荷低減を実現させる刃物の開発

1. 取り組みの経緯

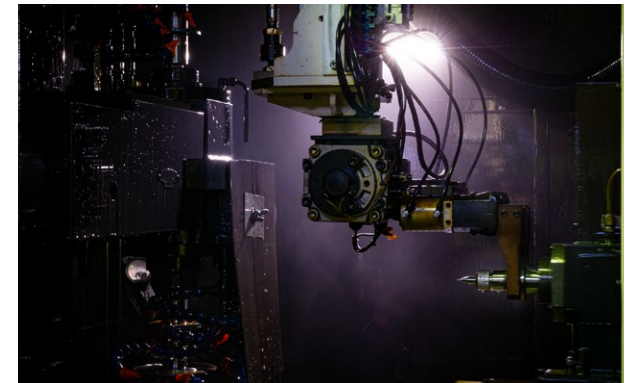
海外に販路を拡げている徳島県の木工業各社に寄与できる付加価値の高い木工機械用刃物の開発をめざした。一方、創業来の主業である再研磨では、国内の木工市場そのものは縮小しており、近年では食品用や樹脂用、金属用などの割合が増加。顧客からのオーダーも難しくなり、求められる技術も多様化していることから、ニッチな需要に応えられる新技術の開発が必要であった。

2. 実施内容

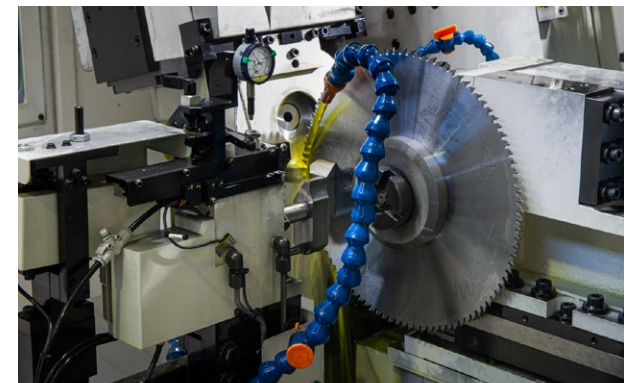
木工用刃物に高硬度超硬合金を使用し、独自のろう付け技術を開発。総合成形のための専用研削盤を導入し、高精度加工に挑戦した。また、既存のマシニングセンターを特殊仕様の刃物が研磨できるように改造、簡単にプログラムできるソフトウェアとともに導入した。製紙業界への新規参入もめざし、発生する紙粉を削減することで環境負荷を抑えることのできるチップソーを開発・製作した。

3. 取り組みの成果

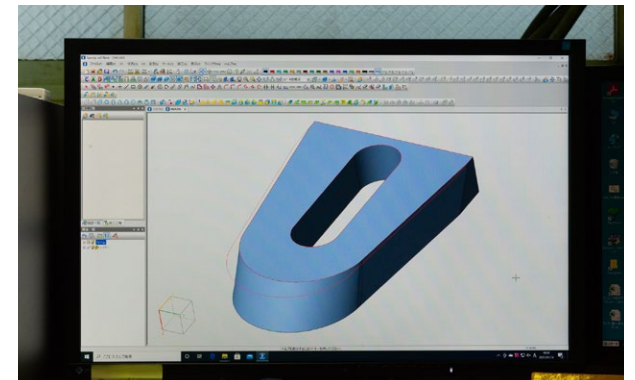
生産性・効率・価格において優れた木工機械用刃物を開発。特別な装置なしで再研磨できることも高い顧客メリットであり、販路拡大が期待できる。また、マシニングセンター導入では、熟練者にしか持てなかった加工イメージがCAD/CAMにより可視化され、熟練者に頼らない加工を実現、短納期での生産体制が構築できた。食品用刃物と鉄道関連部品をターゲットに、販売促進に挑む。



▲高精度な総型刃物が製作できる専用研削盤



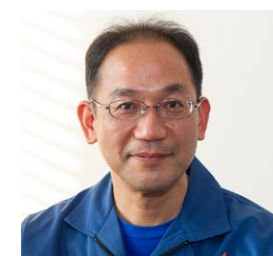
▲分割刃チップソーの研磨加工の様子



▲3次元CAD/CAMシステムの導入

事業者から一言 「今から100年」継続するために

「創る」ことで「今から100年継続する」が当社の理念。品質、納期、価格、すべてにおいて顧客満足を追求め、「創造する」の観点からものづくりに挑んでいます。100年とは、創業から100年ではなく、いつもいつのときも「今から100年」。未来に向かってたゆまぬ進化を続けていきます。



代表取締役
大向 隆史氏

大亜ツール工学株式会社

〒770-0873
徳島県徳島市東沖洲2丁目1-4
Tel.088-664-6112 088-664-6114
●代表取締役 大向 隆史
●設立年月日 昭和48年8月1日
●資本金 1,000万円
●業種 金属製品製造業
●従業員数 13名
●ホームページ <https://diatool-e.jp/>